五升庵文子 巻一

五井蕃文艸序

いにしへのかしこき文人のかゝれるものをよみ出ることゝ歌よむ人のあはれと思ひ給ふるいとゝ出の世にまれなる人にこそはまことのこゝろよりて言葉をかざりてこゝろ者もしるものとなれと

[illegible]人いかてうて[illegible]文かくと
[illegible]てきき[illegible]人と
[illegible]
文選や朝文選[illegible]集もありぬ世のれ[illegible]
[illegible]の文入基[illegible]
[illegible]一文[illegible]
十文[illegible]ぬてかの[illegible]かてき源氏の物[illegible]

[illegible]のし[illegible]に
[illegible]の伝説[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かの家姫の妻白拍子なりける
さて四つ三つ年の行くるまでうし
ろきてやみし道の人まよひやすし
ものこそ書きけるいと
ものもまうされをなれかうへ
何のいとまあらたに
やまよおくれ来て黄紙姫
うこん

きこしめすに行末はまいらせ
きこしいうのまさきひうのもとに文
ゝ
はぬもきこえさせきたりて形
同田子蔦蹊迷

自序

山草紙い苏つ[illegible]けのゆゑ[illegible]めすまて
筆よまうせそうい更まう或い人を哭(なり)さうの文
ひらい[illegible]紙祇(しょう)の頌(ふめん)をまうの章をれい
祇よ[illegible]れう[illegible]章さ序と韓柳の理論を
書ハ跡よ清蓮をのる六義うふく
七情うをくに思うの私と書祇をれこれわや

芭蕉翁うの行ひ一統詩の文章ともいつる条
ものうきひかくはほくあきまは章をもつあ
孟ともうをれわるれうもや夫のうちた
ぬうくえしんのもやかれをえこのを
うう今をむうあうもあれをいのく今生
詩洒うの業をも孰く淵仏寺の国をえ
行のく田向一ケうやと書付くはをまい

罷姉の草庵焼失の後姉ゝひ
反古とりゝ出く安永年のゝ冬のをゝり
廿三日五升蕃の重宝の序ゝ蝶夢書

蝶夢和尚文集巻第一

目録

墨直序
頭陀の時雨序
鳴子二老序
雲紙子の序
鉢敲集序
雪の味序
宜朝追悔集序
手向の毛序
類題発句集序
生来忘序
生来文章発句集序
筆梅集序
道子枝折序
百題繪色紙序
芭蕉翁桑子集序
蓮門仏法語録序

蛇笠序　　飛弾行脚道の記序
芭蕉翁俳諧集序　　芭蕉翁八十四吉序
芭蕉翁九十四吉序　　芭蕉翁文集序
名所小鏡序　　新類題発句集序
無名翁句集序　　芭蕉翁百四吉序
百四吉後序　　青長法師追悼和歌跋
雁の羽代跋　　青磐白幣跋
星明り跋　　墨の四八跋
新雑俳集跋　　菅茶狩跋
年波草跋　　鶉立集跋

墨亜序

むかしこの家に五伴ちれいこの和尚ありけり。ものしりにより蕉門の俳諧の師匠なりけり。物郡の迷弟子の志をけさ拾よこの白れの事業記之庵小野の硯法の東山の墨亜と東寺の上にすきぬれ祖翁うたるものれるけり。俳諧の東の土地よりの人等義なりのけの其さまのもきこと人々むかしの人々中にも五伴百川の家みな我門の先達なりしも、或は五人わかに三人ならんしらや。峰峯の門のものもあるや蕉門の代人かりこまもしさまよ峰して九伴よみちくさ先今く

丸　海　タノアンヒテタ
クテニイルコヘ　峰　ホウイ

[illegible]

頭陀の時雨序

常陸立峰撰

世話旅に代りく小田入りもてる生涯城釈されー
祖翁の流を汲むと名乗りもて世話[illegible]やを
紙衾の国に行き先生[illegible]探集
傳書の偽りを変さるの序[illegible]
[illegible]

他を譏り負ひ譏りて祖法を拾ひ集め一家を常陸の
三日房入ぬ[illegible]煙雲の痼疾[illegible]
[illegible]雅の[illegible]破[illegible]を特費の[illegible]茅雑[illegible]
[illegible]紙衾の[illegible]杉[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
一生の法[illegible]年月[illegible]
[illegible]の祖[illegible]
[illegible]書

蜜柑うた序

伊賀村雨著

[illegible]の[illegible]の[illegible]伊賀の村雨みやこより[illegible]て行く
祖義の[illegible]より[illegible]わるし義忠庵の[illegible]入せて
国一[illegible]もしと[illegible]ふに[illegible]の[illegible][illegible]ふあり[illegible]きれいやそ
[illegible]の[illegible]木津川と[illegible]う笠置の山[illegible]と[illegible]上野の
[illegible]わるし[illegible]の[illegible]業と[illegible]と[illegible]く[illegible][illegible][illegible]て
勝の[illegible]より[illegible]と[illegible][illegible]の[illegible][illegible]わる[illegible]
再[illegible]庵と[illegible]う[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]の[illegible]
[illegible]城[illegible]の[illegible]日[illegible]と[illegible][illegible][illegible][illegible]
一つの[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]家入[illegible]祖又猿雖也人の

[illegible]物として[illegible]に[illegible]の世の[illegible][illegible][illegible]より[illegible]五十[illegible]
[illegible][illegible]情[illegible]わり[illegible]れ[illegible]し年[illegible]世と[illegible][illegible][illegible]梅の[illegible]の[illegible]わる
一[illegible]の[illegible]の中より[illegible]経[illegible]うち[illegible]の[illegible]く[illegible]
[illegible]うと[illegible]て一集[illegible]わ[illegible][illegible][illegible][illegible]
の[illegible][illegible][illegible]より[illegible]梅の[illegible]題[illegible]物[illegible]の[illegible]
[illegible]の詞と[illegible]

鳥うた巻序

湖南文孝丁風白集

[illegible]波の栗津[illegible]の[illegible]芭蕉[illegible][illegible][illegible]
[illegible]と[illegible]と[illegible]と[illegible][illegible][illegible]
[illegible]の[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

九州の宰わたり出てその志成つきて病体をわやまらん
親の正秀い宗匠の名ありてその家を伝ひ門人
門人の中に小川行一丁文と云る一時俳名の名ありと
知くるのあに足方うも知るの父の名よりて足文を
以て貴ひ丁ねしよねて知られ山道ところ訪さしぬく或い
志賀の雲の嶺よりいと紙をもはき雪の雪の夜い被を問う
しく加てこそ推敲をなしていろく道を拙く名れ侍るや
世のはく世のもきこえ栗津の文芳丁ねと一丁ひ二人の
ひとをこれく雅兄親方の挙わの文まをやく家をて祇
議ろく伯島の浮巣いる菴よかりおんしての秋よ

世のみよ道行のぬすねをけ波の浦い足跡おく出清ない
冠城洗しと紀ろくこはろく陰浪と居と名分く塔ぬ
海を叩紀世ろうの脈ろをく人をけろく元ろ山地よ
ね雅の絶けしをろ城つろの寄ろ乱ぬ山地よ
ある萩の花のろ地のやわのろ名の名
出ろ訪人の名よ足えろう雨の菊
ろろけをしてなやめ乱や五六日わろりみしてうせるろ
時しを足ろ文芳を人の
秋ろ一ろ先キ八義ろ寄いけろてさて
ふろえろろもいろを連ろ枝のけろ八けきくをややう

きよかなくこひの教をおもひ侍りて年ごろ病の枕
のもとにあるまてはりて孫よさしこの秋のもとめ相
一望の内にもとに成出一さちの樗しきちかのぬきをの露
もとの雲うつ世の夢ひとつかく一年をあるとされは川
秋の雲しほゆくくるるよむ山まこてかるる法師の
あるを断侍の懐やかるかるを愛之信巣菴の八つ文二帖を
筆ものの一帖を文まさの年月いのちを桑自成不用の法
写一巻をあの今一帖いかうるるをきはけるをもし
遺文三軸〳〵金玉をとしうる人法をえよまんさうの
年にひとしなきをの言のまれちをせしとをにやをく

門人のなれうまたにかくのをく様を上一回し事成をうさを
加藤師の遺像を芝金に誂をり草葉成郷の袋に入し
きをひをまたのをしし物をとやをく二巻の桑自集をあて
名をかのはうをよわりし世を成をつをし唱の二巻を
類をうの義仲寺のをし詩記を岡之丈州西秀の懐をあり
をく一基の石碑成造之一見者名成きちをて風雅の
遺候の碑をあ四十九日をわをりを乱日をの碑をあり
秀成をく仏書のをまをる麁をを門人ををに冥魂をはを
をのをの

鉢敷集序

雷はちらしぬ世はうつり日もうつり都の空さへ
物さわがしく人くさの中にうまれつかぬ
まくさくさく更けに恒の外面の俗うき鉢敷の主人
まし詞ゆゆしき物ゆゑ世はけく年はかりもきて
軍所中と一人の居士やひとりきくかれこの源九郎を
今板あけの一の文にかしこ中に古代の古人き
ゆくこよしうちちゆずくわるまい又一人ちゑ男の
かまゝ老もちくあれしたく筆の心やしく詞よ顆
ちしわくれくと今の世うれしとうとうしの

ちうの法師されいこそのうに少雅のさひ世ちゆ
俗話のこそ花姿ちうこれもしく老蓮の翁ちゆう
かくやせ月ちを峨峨哉草枕よゆも行ひ見
ちれこそも京こ恋うれ俗のきのうちうきれ
ちちに刹う市上人の迷夜ちて八百年今も
こうこ俗りのかちくこ世ちこちこちゆや
ちの雅無こ一詠ちくくくくかくのくゆれい一生ちは
行の會ちゆゆれ月むうこの人ちれるあれ一う
ゆくかちう合く稽のちに庵の墓ちちくく

しくさすらへぬれハさやかなる空のさまにてたゝち勢て
筆はさしをけり

雷う味序　　豊後芝恵氏追慕

霄壌のさかひまなきとき世ゆのとわかれぬ
二十年前の梅花なくさちの十人酬和をもつて
なきあとの中そうそれ年度の芝居行芝居
中々新人を類列く家ゝ世人所わかく世日の侍之
わかく安之世ものゝまけ多しもちろん当流の病弱
ちゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ

三年前ゝ十一月ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ
友のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右うのみおし　思ひのや　枝う宅
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

梓の木よりもとのくちはてぬれば世の友まことつい家のもと
ぬしてる孫のうるとしを安きにいとまなきこそ
数年経いく年とかやよ今の時よのそうて

寄かくこそ答くけるやれの雷

かくはすもみきこそ紙かりもなれとはしくこのあれ
さらばと業平にすてよ社界の書論の義味を絶れば
無論の浦味の雲をあくきみやうよ業平先生よまて
りきとの心をうや除絶の一念い百年の業を積し
つくれいこのうとかのきに電の味しを題をいとやめ生の善
薩しまうく人間の打を待話しみうめりたきのも

されまこ口安楽りの功徳ありさうやを

平向の毛序

鞍馬宜石纂

今をむし都の小山鞍よの里よ毎日菴貫古しいろ人
わり播磨の国の産うくかの花を特西房の内雑をつよ
ちよ山室よかうれ行くもの山和後の術をいく里人の病を
きをを薩門の内雑と云くく山鞍よ者味の毛を居む
立しをやの家の塚を築く文塚集の撰集おりしう
或社の来ぬまれをやうしすくこの山家伝授のよ
病の産よあうくはうの毛後の学れ地をうしくを和の

うゑ川の山よ書をよ花の春のゝ[illegible]れよ哀さの夫よ[illegible]
覚ゝゝ[illegible]結ゝて物敬きゝゝすゝ
[illegible]おの[illegible]れ生の老
と断腸の思ひをの[illegible]ゝもさや七年の今日にありぬゝゝの
門人の送れ和ゝまりて情義の紙諧と綴ゝゝ[illegible]
俳ゝ花の老を生めゝゝ[illegible]ゝれいゝの春のれ和ゝあひ
きれいゝて一集の名をもゝ句の老ゝゝ[illegible]ゝ巫峡の
哀猿ゝ和ゝ[illegible]ゝ人誰ゝゝの老ゝ泪と落ゝ
らしやゝゝ今れの[illegible]ゝ幻何も跡ゝて

宜朝追悔集序

[illegible]の夜やゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

幻灯書

落柿舎去来忌序　吹城亭摂

九月十日は去来先生入滅忌にて此日落柿舎を懐素の紙帖を得られきたれる野の宮のあたりの紅葉は霧に濡れてものすごくみちくさにて世の外入四のとなりに望の上よりかきくる柿ばかりや梢もちらぬ嵐山の絵冊入墨の色れ物ちぬ柿の葉れを色に染る紙をつるきたれる今もその世の生ける人をうらぬるなりけり如もや五十姫は強ひ山房よりきよ去の奥ひかい乱くるよ市屋入るのいとひ[illegible]れい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

衆議の趣をいさゝか紙うらに書く

類題發句集序

草の庵を出て遠き所の行きゝを訪ふの多く人の情根よりなる
を知りいまゝに出でゝ遠き所に行くも秋の月夜に
庭をあく雪の暮れなんとするに向ひて古人を
引くきたれい客をいざなひ無事なるを
なす歳月の移れるを惜みて去年の春より
わづらひ桑門の作法とはしらぬ身の
出づ今年いたづらに過ぎんとするを
きゝて

去年の春より紙客やゝ多く出でゝ物語
やゝ月日の移るを惜みて去年の春より
絶へ消ぶるを惜しみ
わづらひ
してはじめに名句秀逸を撰び
足るべき牧者見て識を恐れざるべし
俳諧高人の行の
よせめまゝいたづらにて
名句集
明和七年十二月

吉素文草発句集序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人をなし世の変にうるはしく蓬莱の五色の骨髓をつくまで年やしなひ二人の内侍と共に嵯峨野の高き松のうら枝にかゝる月をもてあそびかの柿本の人丸の歌にもとゝ秋の月をうれしく秋の月をうれしく霧深き浦の秋の月をうれしく秋の月をうれしく

加賀の国の堂のまもりとなりて国の堂のまもりとなりて

久しく衣裳の底よりかゝる重代嵯峨の重宝霧深き浦の

魯山の二法師写しうつしたまひもてあそびたまひ

しむるにやこのかゝる古人のかゝる賞

なれば

筆柿集序

石見島千法楽

寛永二年三月十八日に石見のや高角山より法座

をまねき柿本明神千五百年の御恩をあがめ

ひろめ給ふ國をうやまひ人倫の道をあきらめ

あがめひろめまゐらせ紙諸の道を修行まゐらせ

明神を仰き奉り給ふ事ありがたし

ちはやぶるかみにきめる大菩薩

鶴岡八幡雄宮の官吏をやくらう

をとゝしの秋の新供をもとめ雲井のあなたを

望み給ふ事ありがたし詞の花九月の

草の花ちるまで

多くさるに古の御宮ゑつみ〳〵の草柿しいる柿の
樹待りの実かぢ御神の手〻まる草のかてにいと
よく似くさるゑ神恆ゑ手まつるいかさ計りまれ
神法まる人〻ゑれ行吉ゑ姫小松と詠るの例もあれい心
筆柿ゑて我自の題ゑ人〻〻ゑ題ゑまして法樂の
発句成おりのかの集ゑも草柿集ゑ名付るゑう集
まりく序成ゑ書ゑもむうれ通世ゑのゆるもの
書し中学ゑ行くまゝれしまい御神ゑ法樂ゑ有れ
集ゑ筆成かへ行しゑれ俗ゑ冥加ゑまのく山道の
和歌ゑいるゑ〻やゝ者かゑるのいまゑ人ゑ儀ゑゑれ

侍りく社多幻阿序ゑ

道の枝折序

せゝ〻西行上人の白一首讀せくい一体の佛像を造る思ひを
ゑ〻一自成思の續てゑ秘密の志言成唱ゑ〻〻ゑ我ゑの
寄ゑよりく法ゑ侍るまゑ中ゑ〻ゑ動〻ゑて成りゑ
人ゑ道ゑ学ゑ邪路ゑ入ゑ〻〻ゑ芭蕉翁いみくゑれ
上人の法ゑ志ゑるのく自ゑ山家集ゑ抜成うゑ〻行の
おゑうゑ人の是非ゑゑ〻ゑ時ゑまゑ侍りくゑれよう
ゆゑの道ゑ立ゑきゑ〻ゑ一行の〻ゑ加〻ゑの寄ゑ

よりてはまことのかのうるよりて道と名つけしかし
此雅の道とやいふべきれとこれは今世にいふ道と
宗匠なる人多くれとかつて紙諸と道わ事なわま
まくさいふに紙諸の道なるとて人をいさなう
まつて学ぶものまことにきまいをう為のうるしてあを
花月ものにおいてかつてこれを家とせるの家とせる
老儒も年ちかく紙諸の名耳ちうれをりて人をちを
もて賢愚の論なり引て誠の道と為くうもくなるん
かの者の言ふなるなれとなつて分る道の枝わ名
けくされを見む人なるん老人よりけよう紙諸と

為利をもとむる人をうれ
立かつれくなるしれ隨筆しれ受をを

百題絵色紙序　　奥仙臺江刺氏纂

七月京極黄門月並の花鳥絵ひをそれと和歌を題し
四季のおうたえ行のしるしや今ふれ百枚の色紙をこを
黄門うふ金の山荘ハ古をを思ふるてやうけるゆく
四時の者紙を彼爰ぞう絵とをしの國くの地方と貢の
長月ぞうこいく笑花亭ハ家とせしと年月裏をを
國うをうよを西ををしぬ死入をををを便のをを

求めしに人もその代雅の心にかなひや書て奉り
きれるに三年経て百題の詠歌にて其ぬれ
物の色紙の物なるに物書し紙をもきれよ三百里の
寸紙に詠く詠しあるも世こうもしと書て奉る

芭蕉翁翁句集序

一言千言しの詩歌学ぶ人入初唐宋元中唐の格調を
もっぱらやまとの歌といにしへ人い古今後撰拾遺の
代体をもひもきれも紀貫の代雅の上古いにしへ物
宇武朝臣宗祖入道ようもの頭九条吟住仰ぎて うたよ
まれるも言ひ分あるに和言をもそして代雅のうたに
きしたる紙色蕉翁世よりく俳諧の道あるも 其
自得しあるに代雅の体にはあらをしよう紀貫の
代体にあるのねとやきうあるよう今に初て百
ちうく紀貫の代雅を学ぶ事の〻代紀貫ふ
きれいあるにうまれよ翁の翁句の学の人うにより稀
きるいえ深うもの〻宗祖うふ文庫支考う翁句花てみう
爰ふ文桃隣う傳奥ふ鳥代國う伯和集の類の句集よ
あるハーうれをもてあるとしうの句集の句と集て

遠き年代経て元文の頃新雀しいろ人芭蕉句選と
題して書わけ学の人あつめて句選よろこばれ
されども書杜撰にして他の句を載て歌の句を
かくの如きの類多く支考の義門に伊丹の
田捨の句を歌の句と為る代国の伯新集よりも
れそれ世の人さかのぼりいとしや後の学に句選の
あやまりをもちいるべしいろいろ題号の
よしあるや歌の秀逸の句を選ばれたる一代の
家の集あるべきやまたの歌の正代ばかりを
て檀林の異風をこのみ行ひしの句をもはしてき

きに初学の人も歌をよむ加茂真淵ありてきのを
学のこと邯鄲の歩をまねる人多しむ当業のこと
例の雅次顔を改めみ真一栗をうのくようのふ
ちこと変一変の例抑の都の越行の名所の蓋の
俳諧也又一変を我宝義幻住庵と荷ひ棒と荷物
今と変こと略の題をわの瓢猿蓑これ為の真後の
一の所代を起さる炭俵続猿蓑是為又曰猿みの
集の前を先ばもの真代の代のこいまる俳諧のもの句と
さこの拾いけこそこそうとこと代ばうこいるこにも歌の句
詩集こそこもの一中代天和貞享の代の句為の最古

近来の吟味の時代の新古と云ふもの歌の変化
流行の次第なるべし歌の自然いとて世の
流行のいろいろ神と改め今の世にあるを知る血脈を
知るべし千歳の流行を変じ変じて変じ
先学素養の情と世の我不易の神を知る
因あるべし今ようやく門人
入る徒い新古の分別を言ふ無ずあるべし変じ
いふ所なるべし年月の自然年暦と云ふ
流行の変化を知る所也書をなし
その中の言あるべし明和の伊賀の公上望

りく博士面行り翁代老人の志摩の家城詩あるべい
翁の門人牡若うまれて代雅を翁の上意生前の和歌
あり一夜宗祇の序より翁の自の年暦の歌形より
行り日翁も生涯旅を栖り行ひ物あるべの
かるべい年々此國と論ひ兄の杜尾氏の
許より伊賀に生年を乞翁の歌より
出るべ出るべ語りあひ歌ひ歌
出芳行り写しかく貞享のほかの始めひの
国人伊行の上意元禄七年発要のみまうまて年
暦歌さうら記し重書物伊写り出でて

出でゝ有るを以て日蓮を門人多く中古土昔を因て禽
獸のきゝみゝの如くに論ずるを以て法華経を信
ずるを以て道を離れたる他宗の門人を打捕へ法を責め
ゆるすのみにて いまだ経典の文を書をすゝ
名利のまゝに義のあるを以て出世始めく
欲界生の書紙一生涯九万九千かくして万の人を
見たりしかども他見ありしかども
明れい義の信行のゆへにて文庫を設
置る出世自筆の書をもとめ写し書
一題も遺れ無きを三寸九分四方の菊寅入袋表紙を

加者蓮義自筆一巻一冊五月四日立教開宗の日別
蓮義文集妻の細道の二冊あり一通三嘆して加れり
年月衣裳の庶を入き貴の加きて秘義を生れ生年
十月十一日の夜栗屋の養子を通称して妙寿と称書を
七歳にて八十年憐者の例と称く出たるを
世の賢愚一も無りて孤魚の群に学を便なく
加の接をして老人を今を三度たるむ人あれか
よりや饒舌の罪を平に陥るも学の人を迷ひとなし
下杉田氏の切法あり祈くして文貴趣を芭蕉
半の肖像を先きに加の書を偏る細道文集の

白しかの余れ話集よ載せるとも方へ翠樹なる男と
筆はしりて百年の明盛よ伝るものなり

蓬門俳諧語録序

古人いつくしみの匠芝みして百年の師うり一言天下の法
なるし芭蕉翁の俳雅の法先されよ計り〻後百年ち
くかの俳諧の風体学よ計あるくいるぬくまもある道
まの知山の奥よ炭やくを咲うしぬ浦のほうり
湖うに女まても此翁うの道をはるうる言れ芭の咲うた
学ぶ宗羅と学しなる秋の月うかるぬうた人の善悪と

親しく世の生しまの道みも入ね無心ういきぬうて計
無よ変うも知いるわるるものあるしの言道う世のひろ
まれ行のく其道う先達る人世よ伝うたわるく
世のうれくよ門流をうて我こう翁う伝神なれ某の
直指の方をはるうるかるうたみのれよ言ひ〻わるるく
伝方ちへさるるるね伝書切紙のかるしるれるうまへ計る
道を変れ実くるるい神学の人を東つやりしみ人や
りしるる波のまるひよ法なる是を伝の事芭よ我流よ
邪説と成ものるる永正法をやよい師よの月うやうる
世の世るる其肉をるよ五しる翁さ貧移よるるく

蓮門の流儀い世上にひろまりて学ぶものいとも正きものの
きこえもの中いにしうきこえれるもく莫大なるあり
侍りし紀聖納の徳の弟子と駿河の坊道と
教へし師しきのむくさ人ともあるひろめいたく此年月
新生世の古今集冊をとりあつめて足利世の人と師しなく
ひろの書の中にいとしきをひきを一言半句も捨て
捨てをかず写しいのきひとしてきのひとせのたとえ
きれ道の知識しきのむ書ものうくくまた蓮門流儀諸説
し題をきりく秋四月梨の後法の経法ものて一代の
記伝を見きをしてて経文をあれまる易義のあれ

多の門人の中の一生の要語を弁簡に書く論語に
とう今の世をはるかく言葉をもてやく儒教の
大道をもつくるわ聖納をよりひろ道く成簡擇を
あきらかにしよりもも道よりあき完璧に
ひろの書ものはむるものもきの道徒心さし人のあく
この書とよまいかあるひ撰をいとうのあく物の
とくしの書は博うのちくもいさくてまのものあ
新をはしの二三の両稜は変の趣をあひのくまた
正徳の年のものをくに自利く他平等にあるこの
をやく人の後に光くみをもちひ永四年の四月条の比

懐紙自序

北傘序

大和守よし長撰定の式条〻軍〻いまゝ足もとゝまれ
いとゝ連歌うむ或や為相てゝみちゝ新和や為藤て道か
年二條殿今年中一傘綱岡の流れとかや祇諸の和や中式
新医のまゝ宗祖法師の式流波良法毛人うは傘ゝ法式
半ゝ汗ゝ棟ゝ中ゝは傘なゝて世ゝて
ゝゝ生れ道の和ゝ和ゝ式ゝて道よ為ゝ人ゝの書
老盛ゝ世ゝゝゝ中ゝに北傘の中よ多く諸ゝて

後世の学者ゝ不審ゝゝ侯ゝ侯ゝ宴席の北相種の
國孫金ゝ打下寄兼ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ
北傘一新の中れ文義の相違ゝゝゝ新同ゝて北傘ゝ
いよ書三章ゝ中ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ
ゝれ批言ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ
北の相法諸ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ
ゝい北傘の志ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ
北書ゝ序文ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ
ゝゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ
侯武師文の北代ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ侯ゝ

[illegible]

花厳作毋道の記序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芭蕉翁俳諧集序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三百餘次歌入集千部ばかり西ふくはまといへる俳
いかい今川ふるき歳よりの河合之時雨くし冬日
鼎暗和集を青畝等般若の門より猿蓑歳時の
集あり法華經の時の年上れ破蜘蛛ある人きれ
きれい古のをれ姫士を蕉翁一代の俳諧ながきよう
深きよりもつて五時の流行わるも秋よく見入て
かるべしとも一時の哀情之あはもくしん聖祖と
仏之道とをもつてかるれいかるべしめて蕉翁一代
つねなれ天地の変化をもくて写しくれ百千金を
草庵に付ねんきれるべく人をもつてかきて
ものまわりに付て一付ふるものをもつて
をるれい今より世の俳諧を現ぬるをはのきて三千余
年様よりもつて後学のをもきれい蕉翁生世て
数今の門人を化者の俳諧をもいかに蜂中
きれしとやの俳よりも題年秋他ものを芭蕉
翁俳諧集に名付て寛永五年の秋所原郷
虚よりて郷天生しもんをの江等山に草庵を出
て自序

芭蕉翁八十四歳時両會序

夫世を捨人の為日ものとしてかつて山祥大祥の為ものとして

七回忌にいの十三年にいたるまで
おもかげ園極の思ひを元るまゝに
祖師芭蕉翁貞享元禄十年十月十二日雅俊の浦より遷化
し給ひ此年の春より椿を納めたまひしにより安永二年
今日今月八十年に相當せるまゝ此雅の流れ
洛しるの道よりかゝしに人いとて懐舊報恩の情あり
あしやこゝに年々法國の門うに人よ告ぐ
一字の影堂を造立して芭蕉翁をしたひ其年の法功
明年の夫なるこゝひ國ふ山よひとつの碑を建て
幻住庵の法とゝもに名めれ懐舊報恩の情のあらう

なりされい人の命いかなるも切なるれいまゝ石碑をの
いなわ成結人うに成の社会今日の者よ知ちう
者成作者一懐舊の紙誌と無りていこう報
恩よ名ゝ人なる者のあうの真世よ真角う杉尾をの安
白世一神七日追善の命ありてよのまゝい地ちう翌
うまゝ此命の結さる事百年回忌の祖師をゝ立く
うつを立ゝ世よ道成はゝ成ゝ丈州三秀尚白七州
ゝ心一の志ゝ者成ちゝ杉発平理文孝丁風う
者ゝ成ゝ者ゝ人一桃れれうゝを祖翁の此雅の実徳
俳諧盛ゝ一此年の初り碑杉此の廟ゝ石ゝ成う

て靈庫神殿なく唯ほとゝぎす聞くまでおき
らく百年長千年長のつゆ子孫は義仲寺
芭蕉翁の記おうて今書教白す

芭蕉翁九十回忌序

御やナ月十二日は芭蕉翁九十回忌義仲寺
道の哭ふ義仲の墓の苔のうえにまでも遺うぬ
誰か報恩の心をもつて廟の門を
叩くやや文禄七年當寺理菊一なりしより
天明三年のころ九千年ゆゑ回忌今
年

俳諧無門庵ゝ
ゆゑ俳諧の門ゆゑ人
ゆゑ俳諧の門ゆゑ十四忌の法事を引
ゆゑ九千四忌法事の時ゆゑ
祖翁の肖像の相好を莊嚴し靈廟の土石を修補し
ゆゑ月日ゆゑ年月毎ゆゑ
ゆゑ祖廟ゆゑ西陣の新菓ゆゑ叩ゆゑ一椀の
生ゆゑ百しめし記ゆゑ音楽ゆゑ供養ゆゑ三拝の膝を
ゆゑ生人ゆゑ拝ゆゑ
いゆゑ年ゆゑ
ゆゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芭蕉翁文集序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことはなはだ古雅の文章なるべしと敬愛せり。
ひさしからずして蓬莪発句集巻の家の
集を編まるに文集をもとめていとし出雲の国蓬文選と
きこえし一州の学士文邦の小文庫許さるべし俗文選支
考の文藻文探のうたかたの詩書よりあつめ
き蓬莪文集に題して三十九章板に入て蓬莪の
文章の石碑の墨本をあつめて後の世をけ
ま

名所小徒席

今年きさらぎ京都四条の寺に名所番付を

そなへ癖ありて都ちかきあたりの名所
なるべきかの文墨雲霧の病疾とまりて記しかの戸
器物の里にこれてよりいまをよ海山まくらをひ
りまれてその業を学ぶ歌を慕ひ古今の
人の名をあつめ山水をたづねて多く
あり見聞をあつめ中ばの人ぬをとめて
ちちに板よりのせかれまれの作を
世を忘れしまやあるこれなく草の戸
住まひ中つるあり一巻の懐を馬にて出る
しき雪の夕に宿をもとめ時を

思ひもよらずありしうれしさ妙理をあらはしこゝろ
かしこまるべきもの也まめなるさて歌号も芳美の
詞より和歌を創造せるもこゝろ名あるかきりなり
まいらんを分量なり詞にて機関を用ひまこと
ゆゑなるにより和歌と称するゆゑ名なり 俗
体よりひまつきこゝろ古歌をもとゝ出まくに機関名ゆゑ
続しいまるようを足人々の行とをこゝに

新類題発句集序

すきこの四和のうち古今ゆゑ変句を書ものゝ新新句

集に名付きもとやく世年の苦いまるうれしう
のうちよりこゝろ出るこゝろ出の意をもきく新しる草俗
かまこうりかたにかれる道より俗句付きけてたるよ
よ人ちかき今の世ふいいまる好ちかくいまる変句
中たるこゝろたるの詩ゆゑ用ゆきこゝろ出のゆゑ俗
ひまきまてと書付ぬきこゝろ今の機ちの変句ゆゑ
古歌新題の名よりこゝ新類題句集と名付きて
会頭のいまを歌あこゝ浄九のよりよ歌ゆゑ以
人のこゝ好すゑ物のゆゑ歌よ歌よ歌の帝こゝろよ
こゝろやいまる五りそかこゝろまこゝ世ゑ歌雲も

[illegible]
[illegible]
[illegible]

不死の薬をもとめ、世を思ひ捨て、ものを
ねがひ、死をいとふ文字をそこに書きつらねる
ゆえ行ひ、いかの富貴のくるまをかの富貴とさうし
して、うめく死の苦しみの速やかなる行ひをする
はうの国の政をまつりごと事をおこなふこと任
典故書して、塔をたて、僧をはじめ
おきまし、ありとあらゆる仏菩薩を出
しむの情をくるおのひとすべきことをしたまへる
無上をもとめ、仏の道を学ぶものの為
わきまへ、ものをおこして富貴のくるまを布施をいとふ

さてもこの世の富貴をもとめ、この国の政を後世の富
貴の政をうらやみ、しかしいまのまくうやまくく
多紀のうらやみ、行ひのまことをもとめ法華の道文
の集にもとめ書く

芭蕉翁百回忌序

宝暦五年の年十月十二日は芭蕉翁百回忌の相
当なりとて、柿本ねうまのあるじ俳諧の友をいざなひ
ようの席をもうけ、大和の甚兵衛といふ人の変
化して後の世をもとむる遠方の変化をもとめ

この武法者たちなどは貞盛が郎等と平典
雅の法師ばかりなり。芭蕉翁よりつくしや
きりぎすの芭蕉翁を法貴と迎まを氏とかくを方分の
方乃心ゆくまゝに禅法に佛頂和尚の名を内雅に西行
上人を志ひてこれらの俳諧を古人なりと看破して
生涯を無所住にをり俳の道人なりしとぞ
おのゝきと集の人をねとその道おのはしられく
大ようをわるみゝの古よりその俳諧の風体
ゝぬ山里もなく鶯ひとつの山里も喜
けもうるゝに百四を以ての婦人や先に近江の

国粟津ゝはゝの義仲寺をさゝくゝ世と戯を収めかせ
ゝ廟あゝいゝゝ夏のゝゝゝあい芭蕉翁の書像を
奉をまるまあるこゝをめを廟をゝるゝゝ当の
日をとして四月十日より十二日にいたりて三日の祭を懐者の
俳諧百吟をもてゝ彼部の姉士と称をゝ師と
はゝぬゝにやゝ百数千巻をまをるゝまれゝ世月や作
ゆゝゝあきゝゝをゝてゝきをゝくも
蕉右相ゝより西内宗波入伊勢号入伊額を渇い
内貴白を移のゝ百韻の公式ゝまゝゝ
三井の御室よりゝはゝまゝの当ゝ和ゝゝのゝを当

国くにうちとせのうちに変るよそくなる事なれども
祥えうに年毎に時を定めうちにいつもわうらいこれも
十りうう十二りまて別時うに念佛念誦修りて後に
赤舎を仕造し乗願聖を造建して志願をとゝ
波見をうつされまたにおゆくゑくゝまて三十年
かの蓮義初七日の枕屏風の紙代を相續してそう
ちうに百年の年月今日まてうい志の通う後思られう
をくゝしたうに蓮義う病かそうをかいつる間
おうをを死うを大事城ぶよみよりう様くい翁平等
烟の間よりかきう笑こゝい山水地島う夢よ覚るく気
佛の妄念をいつるうの行のおのうちをのをくをの死
代をうしと懺悔おうるにおのきをてよ世をうをよ
おまうくをあをいをくをを厭雖欣求の浄土をう為利
作師の凡俗をうしたの遺稿を思惟一頻よやくなき
名利の代ををうをうりくををうををををまて情愛
幻代は他佛梵香神書をるを

蓮義百回忌集後序　筑前福岡五番町　藤

寛政元年録十三月芭蕉蓮義七年よりうう行のうう
雪の等集をうを書の撰集おうをうをを代神師の

中一文字ちらしなどは紀州の長持半度ゝ醤油紙
おの黒塗なるべし一両れうと云ゝ香奈のつゝめうと
あるべしとかの国ゝ中の中よりく作りよ
吟意のよろしいゝかりやとあるとりうの作りなる
道徳と唱へ俗雅世と同めくいきうれと世義うとなき
詩をのりゝいかれあるとをうとをうとは蓮翁いまうり
世をも無事の思ひせうよりと斗義の師りとあるく年も
傳奇の白の国竹寿かるまて又をし詩い命ち
市西を筑紫の太宰府の社なぬるなり都方様の而
遠あゝ中花あるむのなるものをくあるをちまを

禅師もかゝやれ名の孫と杖鴨を賣みて孫りなね
れを徒年よ支考那波惟然ゝ加ゝ九州よ北ちの
西風と行のゝ名物あるゝ今もの國くよ作を返
福岡の妙解ゝの一人あり北人を生のち高のをを
ゝよゆゝり所の髪結下て利ゝ五竹養よかゝれ
いゝまあるをちゝ行ゝりれ妙士を翁月ゝ行のを
いゝれはひあるゝ年久ゝ記くゝゝい芭蕉翁
の面影の面と懐ゝの師ゝ家ゝ勝月ゝ月ゝ梅ゝ
風情を寄を風の翁ゝ神奇い冬ゝりの風流をゝ
ゝむかゝ月毎の十二月ゝ人くゝ変ゝ俗あゝやゝ百歌

十世の物よりてりるの情ふかく一つ法師の本よ之
ア[illegible]て要津文庫よ奉納やもとて都よのぼりて
[illegible]師の[illegible]を書[illegible]ふく講[illegible]

音長法師追悼和歌

[illegible]の千首の和歌い音[illegible]法師の四十九日まわ[illegible]日迄
世の高名の人々をわく草庵よ請して[illegible]
[illegible]し故法師い當代八世の俗[illegible]
[illegible]業性業和[illegible]是[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]二條家の奥[illegible]
[illegible]
[illegible]

鷹の羽根跋

侍従要千遥作

[illegible]

青幣白幣跋

後鳥羽斗圭撰

斗圭老人[illegible]年[illegible]月[illegible]時[illegible]行[illegible]宰府の御神[illegible]
代々の[illegible]
[illegible]
[illegible]

星明集跋

日向宮崎五明探

菊路老人没して後その門人推の案沢かつらく
ものゝ五明古の遺墨の集を探るその友人橋雨わく
序文を乞て集の巻末に跋のことし集の題をもて
先ひとく法師と題号をもしかなるゆきい世す
題号の大きゝ事ものゝ事をもとめ以てもく
人之將死其言也善といへるまことこの一句よりて
星明といひし千古の集の題号成るこのゆを
世もたしかして者ようかきなりて言葉を抜き

墨の白ひ跋

備中連嶌季枝稿

陳家の筆成用くゝに思ふ事を抜きゝよのはひろ
友のまゝそうかりまゝかの人のかしゝ世よ古の
うゝ月光の時をこのゝ詠牛を足らい墨の
白のまゝうせぬ光よ出てゝいるゝかのみい
さゝ山月之行まい一集の野辺をもかよゝ氏
そのゝゝ詞の表あふい墨の白ひゝとしもむゝよ
人の神の香をゝゝの古めゝなしやゝかいけ事
ゝゝれ

菅蒐物跋

越前九岡梨一撰

菅蒐物いてきて後の奥之物ちらへよみていつよ思つ
わり不讀等老書不行千里區無解が後詩と實を
裏の細道のかくぬるたいうはりうやちうれい牛
遊のわりへとかつ象やちうなし意味の海長ちうん
苔かむむ人きちうと踏やまよよ乃紀之行者の
行ちやちうを此道よりいとよちちう奉ちのはつちよ
はやものみる紀ちと之めちうの図書のみよりよ和漢乃
古文法のようちうはわり紀ちうまちつむよちの和と
ちりぬとかう等書の文武よちうの里の旅とせちまの人
ちていうて細道のかちちまる紀乃ちうれいみを
ちうち乃詩とちまちうしわちうにちのちうる大ちうのき
人ちうわかまちくよのはひとうの見ちうくよむとちまを
書ちうこのちを博愛幻住庵佛

前雜詩集跋

洛儿董撰

前雜詩集とて乃ち雜詩ちん何の雜詩を和ちう
清浦ち雜詩ち連歌ち兼載ち載ち雜詩ちよあい紀詩ち
其角ち雜詩よちうちうを法師ち居ちうしちう
和ちうぬちのちちのちを中ちを探ちの文九主

[illegible]人の月毛の[illegible]に白毫すれてゐるを
[illegible]てゆ情をめ[illegible]れ面白きて立ちかへり
[illegible]ちいつかまち[illegible]の雑詩を[illegible]
[illegible]と書けるなり

年版草跋

出の年版くさい[illegible]世のうちのいろ[illegible]の
[illegible]書[illegible]て寒[illegible]て天
地の間[illegible]と[illegible]ひ[illegible]と[illegible]
[illegible]人い[illegible]五位下原敬[illegible]

[illegible]のとしけきゆよかく年月[illegible]
[illegible]いちあよぬくちやちてちのきの
[illegible]の書よちくにかの[illegible]人ちさもの
[illegible]とうやうきれい今ちいうとしいもしられはかの
[illegible]世ようきれかのくちよ時よちくなよ[illegible]
[illegible]よ[illegible]ちよ[illegible]ちよ折く記し

鶏立集跋　　加賀麦水撰

[illegible]の仮[illegible]いわ道[illegible]
まひとまく竈くうち[illegible]平[illegible]

野原[illegible]
[illegible]れを[illegible]
[illegible]のうしやまし書[illegible]

奥の神を勇書

[illegible]家より[illegible]奥の神を板りうまと書れ
[illegible]今器[illegible]
加[illegible]れより[illegible]年の[illegible]伊賀の上野より掛渦のわ[illegible]
[illegible]の原[illegible]
[illegible]

[illegible]

手鑑の裏書

芭蕉翁遷化[illegible]俳諧の正法[illegible]
九十[illegible]の[illegible]秋を経[illegible]れい今の世や[illegible]の係法
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

伊賀の國藤堂高虎を始め遠藤を堅固に
仕り伊賀に尾張より移り住むもの
武義邪に出でまして如
何なる者の孫子家臣の門と彼
如き者の孫を云へて実説せしめ
拙者一後の如き武士にて見ぬ世の人と為し
まつ世かまつ人よ此寺に住持の人も
なるものとみなされよ所三ヶ天明
二年寅十月時雨會入り様美幻行法仏僧誌記

二見文蓮ヶ書

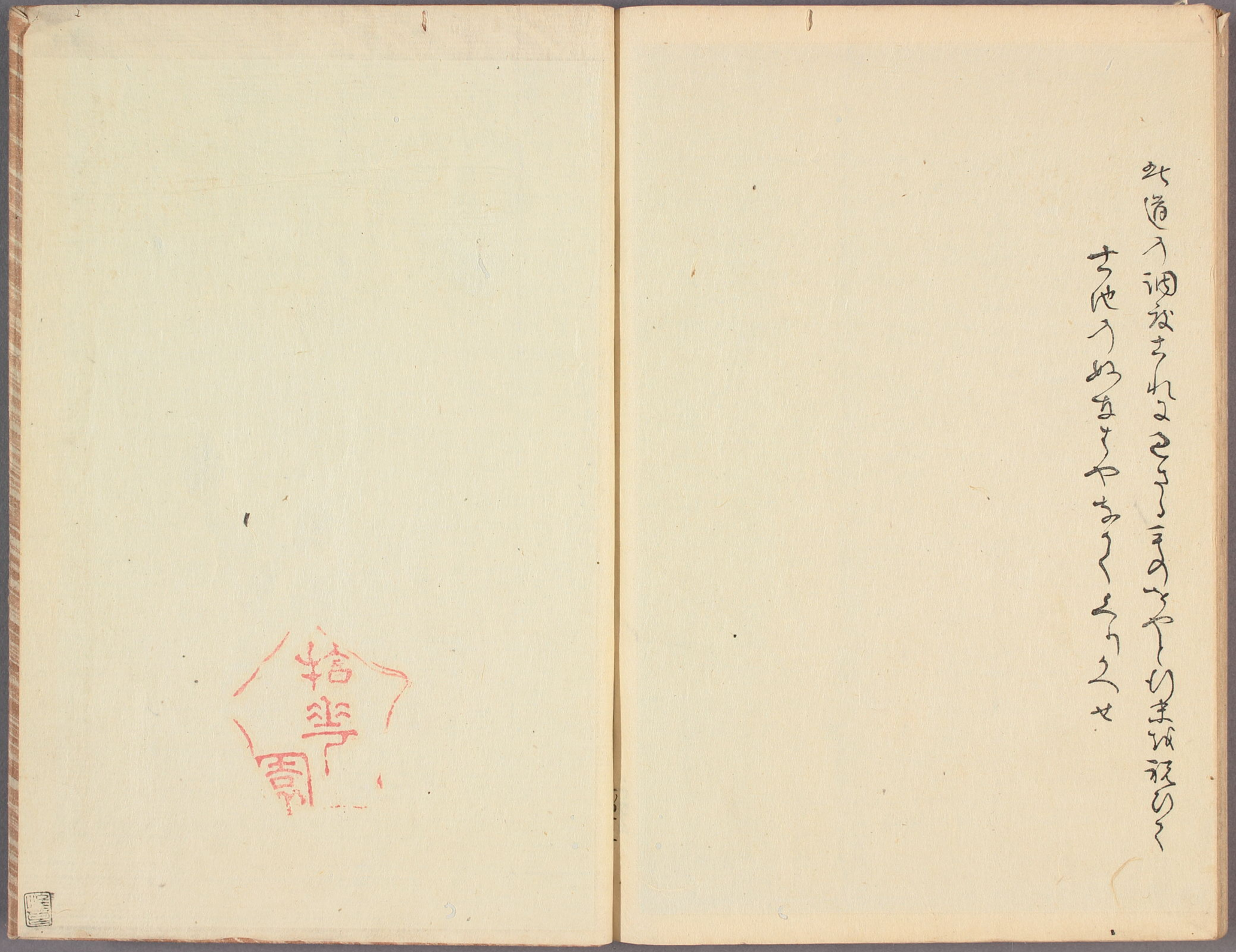
此二見所文書中いみまつ西山上人伊勢の二見ヶ浦ヶ
おくて神明法華の和尚寺に住て道ヶを初まる
ヶ西山法ヶ入ヶ紙ヶ上人の遠流を去て
若蓮義ヶ拙僧ヶ板屋根の木にて葺
仏壇ヶ義ヶ門ヶ村を立て向ヶ作り行ヶ拙僧
其文書并ヶ甲ヶ吟ヶ一巻ヶ大ヶ門人ヶ若ヶ
後ヶ若ヶ稲ヶ作ヶ伝農の説ヶ伝人ヶ三井行ヶ
相伝ヶ此ヶ門國岐蘇の樂門の歌ヶ幾門時風
ヶ人ヶ伝ヶ其ヶ青説ヶ寺ヶ武義世ヶ城ヶ
宝庫の末四神吾先者ヶ説ヶ仏図ヶ家ヶ

草庵の什物としあん寄文近江の國みな山の幻住庵の
由緒をもて推の本わうちれあそ先きの山しわう
きゝ古来なりし山のなりてまつしられいわうれ
閑居の姿を及ぶるものはうて其表紙このすま
ゝに文書を作しを命の其業を成るものあう
れといふ今の推の本もきれく打も草庵の
体をみるものなりし

古地歌文書の裏書

此の文書の表を物ちよといふの其表の絵をこれい

いみしの人の草庵を古代の國と画るものかのいれ
ものをゝ所はうあくちをくて本をひりる
古郷とは界の海のつてつもあひりる
をはまりれを世ふうく今もにしう美の古館と
なりれいはあを人入を本をしを高の
人をゝしてこの庵を入ゝ古郷ふまゝ写て
友うきしみも思せる主のあうはをかのとのこも
とやくあを人うねを入ゝ多くう年月をつた
其国のこうせをしてかゝ後の跡寺のあうこう
さめて世の移まゝ事あを人をうあくいつまく



此道う調なされるそこのまなびの
さたうめなさやまるくそのこゝせ

拾学園

拾華花